

# 短期予報解説資料 2026年2月3日15時40分発表

気象庁

## 1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が東シナ海を東南東へ移動。日本付近は冬型の気圧配置は緩んだが、下層寒気と日本海の対流雲の流れ込みの影響で、北～西日本日本海側では3時間に1～6cmの降雪を観測。北～東日本では、やや強い風を観測している所や、波が高い所がある。

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 3日夜までに間宮海峡付近で、低気圧が発生し、4日夜にかけてオホーツク海を東北東進し、5日朝にはカムチャツカ半島付近へ



主要じょう乱解説図

進む。低気圧付近からのびるシアーラインが4日朝から夜にかけて、北日本を通過する。1項①の東シナ海の高気圧は、3日にかけて日本の南へ移動し、その後、4日にかけて日本の南を東へ移動する。500hPa 5460m付近の浅いトラフに対応した低気圧が4日夜までに日本の東で発生し、5日朝までに前線を伴いながら発達し、日本のはるか東へ東北東進する。シアーラインと日本の南の高気圧の間で気圧の傾きが急となり、雪を伴い、強い風が吹き、波がやや高くなる所がある。また、シアーラインへ向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本では4日にかけて、風雪、強風、高波に注意し、北～東日本日本海側を中心に4日は落雷、突風、降ひょうに注意。また、1項①の東シナ海の高気圧の縁辺では、吹続時間の長い北東寄りのやや強い風の影響で波が高くなる所がある。南西諸島では3日は、高波に注意。

- ② 3日夜までにモンゴル付近で低気圧が発生し、4日朝にかけてボッ海付近へ進み、5日朝には前線を伴い日本海中部へ進む。低気圧は、次第に500hPa 5160m付近で-36°C以下の寒気を伴うトラフと対応し、急速に発達しながら、日本海北部へ進む。前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴い降雪となる所がある。また、低気圧や前線近傍で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本日本海側を中心に5日は、強風、風雪、高波に注意し、落雷、突風、降ひょうに注意。また、竜巻などの激しい突風となる可能性に留意。冬型の気圧配置が緩むことや前線や低気圧に下層暖湿気が流入する影響で、北～西日本の850hPaでは気温が平年より5°C前後高くなる。北～西日本の多雪地では5日にかけて、なだれに注意。

## 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

## 4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。  
② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報級以上)はない。  
③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・沖縄3m。

## 5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。